

知事とJR東海・金子社長との会談（概要）

長野県建設部 リニア整備推進局

1 日 時：令和3年5月13日（木）11：00～12：00

2 会 場：長野県庁 西庁舎3階 災害対策本部室（WEB会議）

3 概要

《挨拶》

○阿部知事

- ・金子社長、大変お忙しい中お時間いただき感謝する。
- ・金子社長をはじめ、JR東海の皆様には、いろいろな課題がある中でリニア事業の進捗を図っていただいていることに感謝する。
- ・金子社長とは、これまでも場を共有してお話をさせていただいたが、今回はコロナ禍ということもあり、WEB会議としたことをご理解いただきたい。
- ・新型コロナウイルスにより、長野県にも広い範囲で影響が出ている。アフターコロナを見据えながら、観光振興や公共交通の利用者増加という側面において、引き続き協力いただきたい。
- ・リニア事業の推進には、地元、住民、市町村、関係者の皆様の理解と協力が不可欠。引き続き、地域の皆様と丁寧な対話を行っていただき、地元の皆様の思いと声に寄り添って事業を進めていただきたい。
- ・今日は、私の方から地域の声を改めて整理してお伝えし、県として求めている事項について率直に意見交換させていただきたい。
- ・開業時期がどうなるのかということに、大きな関心が持たれている状況。1日も早く静岡県との議論が方向付けされ、事業が進んでいくことを期待している。

●JR東海金子社長

- ・中央新幹線計画の推進にあたり、阿部知事をはじめ、長野県の皆様には、日頃からご支援いただき、また、毎年こうした意見交換の場を設けていただき感謝する。
- ・昨年12月には、宇野副社長をはじめ、関係するメンバーで市町村長の皆さんと意見交換させていただいた。地元の皆様と結束を密にして、ご理解いただきながら工事を進めていくことが大切と考えている。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、経営面で大変大きなダメージを受けている。
- ・4月27日に、品川・名古屋間の総工事費に関するお知らせを公表した。この主旨は、当社を取り巻く経営環境が急激に悪化したことを受け、中央新幹線の建設につ

いて、今後とも健全経営の下で完遂ができるか確認するために、現時点での工事費を精査し、それが投資家に対する開示の基準を上回ったことから公表したもの。内容としては、中央新幹線品川・名古屋間の総工事費が、工事実施計画時の見通しから約 1.5 兆円増加して約 7 兆円となるものの、健全経営、安定配当を堅持して中央新幹線の計画を完遂できるということを確認した、というもの。

- 中央新幹線の工事についての新型コロナウイルスの影響として、一部、説明会の開催の遅れや、地権者の方との協議を控えなければならないという支障はあったが、建設工事自体は大きな支障はなく、着実に進めてきた。
- 長野県内の工事について、南アルプストンネルにおいては先進坑、斜坑の掘削を進めており、伊那山地トンネルでは、昨年 7 月に青木川工区の斜坑を掘削開始した。中央アルプストンネルでも、準備工事を進めており、明かり区間についても今年の 1 月に天竜川橋梁の準備工事に着手した。
- 観光については、昨年から新型コロナウイルスの影響が続いているが、収束後は、これまでのダメージを挽回するべく、しっかり取り組む。
- 経営環境の大変厳しい中であるが、工事の安全、環境の保全、地域との連携を重視して計画を着実に進めていく。

《懇談概要》

【開業時期】

○阿部知事

- 計画どおり開業してもらいたいというのが基本的なお願いであるが、万が一開業時期変更ということであれば、我々もいろんな取り組みを 2027 年開業に合わせて進めているので、影響があるということを念頭に置いたうえでお取り組みいただきたい。
- 我々も静岡工区の話については非常に憂慮している。ぜひ局面打開を図っていただきたい。
- 開業時期が万が一ずれるということであれば、判断をいつ頃されるかということを含めて非常に重要な事項だと思う。

●JR東海金子社長

- 静岡工区の着手の見通しが立たず、2027 年開業は難しい状況。国が設置した有識者会議に真摯に対応し、地域のご懸念を解消することで、静岡工区の早期着工、品川・名古屋間の早期開業に取り組む。
- たとえ 2027 年の開業が難しくなっても、延びる期間は極力短くしたいと考えており、長野県の工事も含めて、引き続きペースを緩めることなく、しっかり取り組んでいきたい。

- ・今回の総工事費の増額により工事が遅れるということはない。
- ・当社としては、早期の開業を目指して一生懸命やっていくという姿勢は変わらない。

【開業後の騒音対策】

○阿部知事

- ・開業後の騒音について、住民の皆さんの生活がしっかり守られるように、地域の意向を最大限尊重する形で対策、対応を進めてもらいたい。
- ・開業後、事前に想定していた騒音の数値と異なることもあり得る。そうした場合には、地域の皆様の声にしっかりと耳を傾けて、速やかな対応、対策をしていただきたい。

●JR東海金子社長

- ・飯田市と調整をしながら、地元の方々への説明会や、個別の説明をしているところであり、引き続き丁寧に対応していく。
- ・当社は中央新幹線の営業主体であり、開業後も、沿線の生活環境について、しっかり責任をもって対応していく。

【工事車両の通行】

○阿部知事

- ・これから、工事用車両の通行がどんどん本格化する。大気をはじめ、環境面での対策について、地域のニーズを踏まえて、必要な調査、対策を行っていただきたい。
- ・交通安全、交通事故防止も重要な課題。交通ルールを守ることは大前提に、丁寧に地元の皆様と対話していただき、様々なご不安やご懸念を持たれている方のお気持ちをほぐしながら進めていただきたい。
- ・運搬が本格化すると、どうしても一定の交通量が生じてしまう。通行量の平準化や計画的な運行により安全を確保頂きたい。

●JR東海金子社長

- ・工事に先駆けてしっかりとお話を伺い、環境への配慮事項、環境測定の内容、報告の仕方等について、協議会や工事説明会でしっかり説明してきており、今後も同様に進めていく。
- ・交通安全や交通事故防止についても、地元車両の優先を徹底し、交通ルールや運行マナーなどに関する教育をしっかりと行うほか、カーブミラーの設置等の安全対策もしっかり実施していく。

【発生土】

○阿部知事

- ・発生土の搬出先が、必ずしも明確に確定されていないことについて、不安の声があがっている。スピード感を持って発生土置き場の確定を進めていただき、住民の皆様が安心できるような情報公開を行っていただきたい。
- ・重金属等を含む掘削土(=要対策土)が確認されている。処分先を早期に確保いただき、工事の進捗に影響が出ないように取り組んでいただきたい。

●JR東海金子社長

- ・発生土の活用先の候補地について、数多くの情報を提供いただき感謝している。
- ・現在、11箇所が活用先として決定し、約30箇所協議を進めている。
- ・当社としても、発生土の活用先をできるだけ早期に確定させることが重要と考えている。地元の事情をお伺いして、手順を踏んで進めているところであり、引き続き努力していく。
- ・要対策土については、二重の遮水シートで被うなどしっかりとした対策を施したうえで、周辺に影響がないよう造成し、将来も当社が責任をもって管理していく考え。自社用地での活用も考えているが、一方で公共事業での活用も含め、最終的な活用先の斡旋を是非ともお願いしたい。

【関係機関との連携】

○阿部知事

- ・工事が本格化する中で、県や市町村も含めて、引き続きしっかり情報共有や連携を図っていただきたい。
- ・リニアに対する不安や懸念がある方達がいる一方、大きく期待をされている方達も大勢いらっしゃる。そうした方々の期待に応えるという観点でも、丁寧な説明を心がけていただきたい。
- ・住民へ説明をされる際には、県や市町村としっかり意思疎通をしていただき、地域で不要な混乱等が起きないように進めていただきたい。

●JR東海金子社長

- ・これまでも、各地区の連絡協議会や対策委員会などを通じて、継続的にコミュニケーションを取らせていただいているが、今後も、早めの情報提供を心がけながら、よりわかりやすく、丁寧な説明をしていく。
- ・新型コロナウイルスが収まれば、地域の行事に参加させていただくなど、地元の皆様との交流を再開させていただき、顔の見える関係を築いていきたい。

【観光振興への協力】

○阿部知事

- ・今は、新型コロナウイルスの影響で、大手を振って観光客をお招きするような環境

ではないが、県としてもアフターコロナを見据えて観光振興策を仕込み、人の動きが円滑になった際には大勢の皆さんを呼び込めるように工夫をしているところ。

- JR東海の皆様には、これまでも様々な観光キャンペーン等によりご支援いただいている。
- 観光振興も重要であるが、リニア工事を円滑に進めるためにも、JR東海の皆様がいろんな面で協力的であると理解いただくことは非常に重要。
- 引き続き、観光面でのご協力、ご支援をお願いしたい。

●JR東海金子社長

- 現在は、新型コロナウイルスの影響で、観光面は難しい状況が続いている。
- 新型コロナウイルスの感染収束後に向け、今のうちからしっかりと準備をして、観光振興に取り組んでいきたいと考えている。
- リニア開業前から地域の魅力をアピールすることは、私どもとしても大切なことだと考えている。鉄道事業者として、引き続き努力していく。

【停車本数及び在来線との接続】

○阿部知事

- 昨年も要望したが、リニア開業時には長野県駅へ上下それぞれ1時間に1本以上の停車を確保していただきたい。
- 長野県駅と飯田線をどのように接続させていくかは、引き続き重要な課題。
- 木曾地域は岐阜県駅の利用が見込まれる。美乃坂本駅との接続について、特急しなのを美乃坂本駅に停めていただき、リニアと中央西線の接続を円滑にしていいただきたい。
- 飯田線がより利便性の高い鉄道となるように、ご協力、お取り組みいただきたい。

●JR東海金子社長

- ご要望はしっかり受け止めるが、具体的には開業時期が近づいたらということになるので、ご理解いただきたい。

【その他】

○阿部知事

- 未来の社会を見据える中で、1つの大きな柱として脱炭素社会の構築が挙げられる。
- 長野県では、一昨年に東日本台風災害に襲われ、気候変動の問題は抑止しないとイケない、CO₂の排出量をできるだけ前倒しして削減していかなければいけないと考え、いろいろと取り組みをしている。
- 脱炭素社会、あるいは再生可能エネルギーの普及拡大というのは、県としても、あるいは国全体としても大きなテーマとなっている。

- JR東海の皆様におかれても、リニア事業だけでなく、全体的に脱炭素に向けた取組と一緒に取り組んでいけたらと思う。いろんな場面でご協力、ご支援いただきたい。

●JR東海金子社長

- 脱炭素の問題は私達も強い問題意識を持っている。社会的責任のある一企業として、しっかり取り組んでいきたいと考えている。